音楽科

鏡　千佳子
共同研究者　西島　千尋（金沢大学）

１．はじめに

総合的な学習の時間と音楽科の関わりについては，これまでもいくつか事例が挙がっているが，その事例の多くは音楽劇や地域の伝統文化といった行事との関わりである。本校では第１学年で行うシルエット劇や第３学年で行うクラス劇に用いる音楽を自分たちで選ぶといった活動での関わりがある。しかし，こうした関わりは一見，表面的な関わりに思えるかも知れないが，実際にはクラスで何か一つのものを作り上げるという過程で，音楽科で育成している資質・能力を生かしている場面であるのではないかと考えている。総合的な学習の時間の目標には「探究的な見方・考え方を働かせ，横断的・総合的な学習を行うことを通して，よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す」と記されている。探究的な学習を繰り返し行い，自己の生き方を考えていくことのできる生徒を育んでいくとき，音楽科の学習が関わることは間違いない。音楽科の学習の多くは協働的なものであり，その学習の過程で培ってきたものを，総合的な学習の時間に生かすことができているのではないかと考える。この研究では，音楽科で育成する資質・能力が探究的な活動（探究的な学習を生かした本校の新設教科「創造デザイン科」）のどのような場面で生かされるのかについて，検証していきたい。

２．探求的な活動（創造デザイン科）と教科等との関わりについて

（１）探究的な活動に生かされると考えられる資質・能力

「創造デザイン科」で実施する探究的な活動には，音楽科で育成する資質・能力の全てが関わっていると言えるが，その中の（１）「曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに，創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能」と（２）「音楽表現を創意工夫することや，音楽のよさや美しさを味わって聴く」力の育成が大きく関わっていると考えている。（１）は知識・技能の資質・能力であるが，技能に該当する後半部分の「創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能」を習得する過程の学習が，探究的な活動に生かされる。これは単に歌がうまく歌える，楽器を上手に演奏できるといった技能ではなく，このように表現したいという思いや意図を表現するための技能である。したがって，自分がこう表現したいという思いをまず持つこと，そしてそれらをどのようにしたら表現できるのかということを，これまでの知識や技能を生かしたり試したりしながら試行錯誤し，表現する技能を身に付けていくという過程になる。そして，ただ闇雲に音楽表現をするための技能を身に付けていくのではなく，前半部分の知識に該当する「曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解する」ことを通して，曲にふさわしい音楽表現を考えていくことが必要である。また，これらの力を身に付ける際には（２）の思考力・表現力・判断力等の資質・能力も関わっている。これらの力は，決して一時間で習得されるものではなく，何度も繰り返し積み上げていくことで身に付いていくものである。この学習の積み重ねがまさに探究的な学習であり，総合的な学習や創造デザイン科に生かされていくと考えられる。

（２）探究的な活動に生かされると考えられる資質・能力を育成するための手立て

音楽科の学習の多くは，他者との関わりの中で行われることを大切にしている。生徒一人一人が自らの考えを他者と交流したり，互いの気付きを共有し，感じ取ったことなどに共感したりしながら，個々の学

びを深めていく。このように，協働的に学習に取り組むことを授業の中で繰り返し経験することによって，探究的な活動につながっていくと考えられる。どの分野においても他者との関わりを大切にしていくが，今回重点を置いて取り組んだのは，合唱の学習である。合唱の学習では，他者とともに一つの音楽表現をつくっていく。ここで言う他者とは，級友に限らず，教員や作曲者，作詞者等も挙げられる。よって，自己の主張のみではなく，他者の思いや意図，気付きを共有しながら，よりよい音楽表現になるよう試行錯誤していく過程が，探究的な学習と言える。曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解する学習過程では，自己や他者の思いに留まらず，作詞者や作曲者にどのような意図があったのか，について思いを馳せることで，さらなる理解につながると考えた。一人よがりのよさや美しさだけではなく，様々な視点で音楽を捉え，よりよい合唱を目指す過程を多く取り入れた。

また，教師主導で作り上げていくのではなく，自分たちで課題を見付け，改善していくという活動に重きを置いた。タブレット端末の利用により，これまでより随分と簡便に自分たちの合唱を客観的に捉えることができるようになり，自分たちで課題を見つけやすくなった。そのため，他人事ではなく，自分事として課題を捉えることにつながったと考えている。これまでの合唱の授業では，「この部分の表現方法を工夫しよう」や「パートごとのバランスを改善しよう」など，教師側で課題を設定してしまうことが多かったが，これではいつまでたっても自分たちで課題を見つける力を身に付けることはできない。自分には足りないところを自分で見つける練習をし，それを解決するためにはどのようなことが必要なのか，を自分で考えていくことが，課題発見の力となっていく。声量の小ささが課題であった一つのクラスでは，自分たちの合唱を録音したものを波形で表し，目に見える形で課題解決に向かっていた。音楽という目に見えないものを，見える形で課題を共有したことで，全員が実態を把握し，教師に言われたからではなく，自分事として課題解決に向かおうという姿が見られた。また，別のクラスでは「しあわせ」という歌詞の表現について何度も試行錯誤していた。曲の背景から，どのような「しあわせ」なのか，どのように発音したり歌ったりすれば，「しあわせ」という感じが伝わるのだろうか，と意見を出し合ったり，歌ったりしながら表現を磨いていた。自分たちで課題を見つけるよう支援した結果，探究的な学習につながり，総合的な学習の時間や本校の新設教科「創造デザイン科」に生かされたのではないかと考えている。

３．参考文献

1）文部科学省：中学校学習指導要領（平成 29 年開示）解説　音楽編

2）文部科学省：中学校学習指導要領（平成 29 年開示）解説　総合的な学習の時間編

3）竹内俊一，高見仁志，市瀬　啓(2003)：「音楽活動を取り入れた『総合的な学習の時間』に関するデータベース化と傾向分析（２）」

第３学年　題材名「表現を工夫して合唱しよう」　　題材計画（５時間）

次	時	学習内容・ねらい（■）主な活動等（丸数字）	評価規準（〇）３観点【　】指導上の留意点（・）
1	1 ～ 2	■パートの旋律やリズムを把握し，歌う。 ①パートごとに旋律やリズムを把握する。 ②少しずつ他のパートと合わせて歌う。	〇音楽活動を楽しみながら主体的･協働的に合唱の学習活動に取り組もうとしている。【態】
	3	■曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解する。 ①歌詞の内容や背景について，全体で意見を共有する。 ②アルトだけが歌う箇所，テノールだけが歌う箇所などについて，作曲者はなぜそのようにしたのか，作詞者や作曲者の思いも予想して考える。 ③歌詞の内容や背景，作曲者の思いや意図などを考えながら歌う。	〇曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解している。【知】
	4 ～ 5	■曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。 ①前時の学習内容を生かし，楽譜に書かれている音楽用語や記号と合わせて，何度も歌い試しながら表現を工夫する。 ②タブレット端末に録音したり，お互いに聴きあったりしながら，よりよい表現を目指す。	〇音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫している【思】
	後日	■創意工夫を生かし，全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う。 ①表現を工夫する箇所をワークシートに記入する。 ②全体で合唱しながら，タブレット端末を用いて，自分の声を録音，提出する。 ③自己評価をする。	〇創意工夫を生かし，全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けている。【技】